

新試験「検索技術者検定」についてのお知らせ

2014年4月1日
一般社団法人情報科学技術協会

情報科学技術協会では、1985年から情報検索に関する認定試験を実施し、延べ17,000人程の合格者を認定することで、情報技術普及の一端を担う重要な役割を果たして来ました。しかし、最後の制度見直しから10年経過し、その間の急激な社会環境の変化に対応する必要があると判断し、本年11月から名称と制度を新しくした新試験を開始いたします。新試験名は、短く、覚えやすい「検索技術者検定」とし、社会的認知度がより一層高められることを期待していますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

新試験では、労働環境など変化する社会環境やビッグデータの活用など情報環境の急激な変化に対応でき、企業や所属する組織でより重要な役割を果たしていける情報専門家を評価することが必要です。具体的には、情報検索の主要な目的である「問題解決」に必要な分析能力に関する領域を出題範囲として加え、分析と検索を組み合わせた効率的な情報検索に関する応用能力を評価します。また、1級に関しては、10年前の改定で開始した専門を重視した専門分野別受験の制度を廃止し、専門分野を選択問題とすること、情報の基盤知識を基にした応用力を評価する制度へ変更します。一方、従来の「基礎」に相当するクラスを「3級」とし、2級への継続感が持てるようにします。

また、新試験では受験しやすい試験を目指して、単なる能力評価から学習支援を含めて、テキストの改善やセミナーの実施などを行います。特に、従来から勉強の方法がわかり難いという声があった1級に関しては、必要な知識のリスト化と理解度の目安等を公開して、参考資料や勉強すべきポイントを明らかにします。さらに、1級は情報技術に関する雑誌等への「外部発表」をポイントとするなど実績も評価できるようにします。このように、従来の受験対策の支援が十分でなかった点を改善していきますので、上級の試験を合格していなかった方の積極的な受験を期待します。

さて、新試験の従来試験との関係ですが、従来試験の後継試験として実施しますので従来試験の合格者は新試験の名称を名乗ることができることとします。具体的には従来試験の情報検索基礎能力試験の合格者は「3級検索技術者」、情報検索応用能力試験2級の合格者は「2級検索技術者」、同1級は「1級検索技術者」と称することができます。名刺にも記載しやすいようになります。

新試験に対応した新しいテキストについては、現在作成中で、残念ながら2014年の試験には間に合わず、2015年1月の発行を予定しています。2014年については現行のテキストで対応し、新しい範囲に対応した内容は協会のホームページで公開します。受験者の皆さんにはお手数をお掛けして申し訳ありませんが、それを学習することで受験対策としてください。また、新しいテキストの作成やセミナーの実施については、会員の皆様のご協力が不可欠です。その他、試験の実施に関しても多くの会員の協力の上に成り立っていますので、協会からご協力の依頼がありましたら、よろしくお願いたします。